

西南学院大学ラグビー部史

創部 80 年の記録

1 部・専門学校時代

(1927 年度～ 1949 年度)



昭和3年創部当時記念写真：

31期和田正夫先輩から35期森茂樹先輩に後輩宛の傳承を堅く約束され委譲された最古の資料
 前列右より、仲光清彦、船曳 進、和田正夫、森原公英 (MG)、速水伝吉、明石一郎、瀬口 (野球部)、渡辺勝三郎
 後列右より、蒲池貞雄、宮本周平、筑紫隆明、松尾慶吉、高田大四郎、白石英樹、吉留健三、松岡清助、上尾秀光

西南学院ラグビーは、昭和2年秋に受胎、翌3年1月正式に誕生した。

昭和3年創部当時の記念写真があり、その中には野球部瀬口氏の氏名もある。創部17名は非常に価値ある記録である。

初代部長に、杉本勝次 (後の福岡県知事) を戴き、以降今日まで堂々たる歴史を刻んできたが、創部当初は、部員の募集や部費の調達に苦労した。どんたく参加の謝礼で部費を補充した事もある。

春日原で慶大OBの横山・河野、早大OB大松氏などのコーチを受け、又横山氏の肝いりで、黒黄横編みのユニフォームが許されることとなった。又、一方、キリスト教を建学

の精神とする学院の規制は安息日のスポーツ対外試合は禁止とされ、学院当局との対立が双方最大の苦痛であった。

当年の記録としては、昭和3年12月2日、全国高等専門学校ラグビー大会九州予選は九大主催にて工学部グラウンドで挙行された。

◎初年度メンバー

松岡	清助	・	松尾	慶吉
船曳	進	・	仲光	清彦
和田	正夫	・	森原	公英
吉留	健三	・	明石	一郎
速水	伝吉	・	白石	英樹
渡辺	勝三郎	・	高田	大四郎
蒲池	貞雄	・	大島	秀信
石井	透	・	岡部	克己

■昭和3年12月2日

全国高等専門学院ラグビー大会

九州予選 (九大工学部G)

◎第1回戦

長崎高商 33 - 0 西南学院

福高 31 - 0 大分高商

佐高 12 - 0 五高

当年度の記録はこれだけであり、まだまだ
揺籃期の現状である。尚、校名は旧制時代の
校名であり、現在は右の通りである。

また、試合記録に西南倶楽部 (クラブ) と
記載してあるものは、西南学院としては、日
曜日は体育部のすべての試合を禁じられてい
たため、西南倶楽部 (クラブ) と名乗って試
合をしていたためである。

西南学院高等部	西南経専	西南学院大学
福岡高商	福岡経専	福岡大学
大分高商	大分大学教養学部	
長崎高商	長崎大学教養学部	
佐高	佐賀大学教養学部	
五高	熊本大学教養学部	
七高	鹿児島大学教養学部	
九医 (九州医専)	久留米大学医学部	
明専 (明治専門学校)	九州工業大学	
福中	福岡高等学校	
修猷	修猷館高等学校	



当時の練習風景

■昭和4年10月2日

(九大工学部G/R・笠井)

九 大 69 $\left(\begin{smallmatrix} 31-0 \\ 38-0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 西南学院

西南学院は4名欠員のため11名で戦う。九大は無人の境を行くが如く、前半9T2G、後半10T4Gをあげ、西南敗退す。

4名欠員の理由は不明。おそらく、創部当時の部員不足ではなかったか？

■昭和4年11月14日

対福中定期戦。

西南学院 12 $\left(\begin{smallmatrix} 9-9 \\ 3-0 \end{smallmatrix}\right)$ 9 福 中

で辛勝。

■昭和4年12月28日

長崎高商 6 $\left(\begin{smallmatrix} 3-3 \\ 3-0 \end{smallmatrix}\right)$ 3 西南学院

前半、西南キックオフ、中央にて接戦10分、西南15ヤードタッチよりルーズとなり西南松長球を得、ポスト左にトライ。長崎、

自陣25ヤードより内田左に回りポスト直下にトライ(3-3)。

後半、両軍一進一退、20分35ヤードにて西南オフサイドで長崎ドロップゴール成らず、そのままFWなだれ込みトライ後、中央線をはさみ一進一退、遂に西南惜敗す。

■昭和5年2月3日

(九大工学部G/R・笠井)

前半、西南キックオフ。4分、ゴール前よりスクラムトライ。26分、西南陣25ヤードルーズより九州ドリブル攻撃し、インゴール

西南学院 6 $\left(\begin{smallmatrix} 3-3 \\ 3-0 \end{smallmatrix}\right)$ 3 九州ラグビー

の球を九州がおさえ、3-3の同点となる。

後半、5分、西南は九州の25ヤード陣内に入り九州FBのキックを西南TB受け、ウイングに回りトライ。12分、九州は強烈に1ゴールと迫ったが、ドロップアウト。両軍一進一退になり、西南辛勝す。

*この記録の九州ラグビーのチームは不明

31期メンバー

松岡 清助・船曳 進・和田 正夫
 吉留 健三・速水 伝吉・渡辺勝三郎
 松尾 慶吉・仲光 清彦・森原 公英
 明石 一郎・白石 英樹・高田大四郎
 蒲池 貞雄・石井 透・大島 秀信
 岡部 克己・宮本 周平・筑紫 隆明
 堀之内藤三・大庭平八郎・小石 博喜
 因 生和・中山 巖・安部 是臣
 清水 幸雄

■昭和5年6月25日

(九大工学部G / 主審・香山)

雨上りコンディション不良

西南学院 15 ($\frac{3-5}{12-0}$) 5 修猷館

■昭和5年6月29日

(九大工学部G / 主審・葛西)

西南学院 21 ($\frac{3-0}{18-0}$) 0 長崎高商

池田	田	FW	高	村
渡	辺			
速	水	HB	栗	山
森	森			
内	田	TB	江	崎
明	石			
船	曳	FB	浜	田
安	部			
和	田	丹	家	弓
高	田			
筑	紫	中	志	波
仲	光			
吉	留	丹	田	中
青	柳			
松	尾			

西南は昨冬の雪辱を期して終始長商を押し長商は殆んど好機なく惨敗す。

特に西南 TB 仲光のプレーが鮮やかであった。後半、中央をカットインゴール直下にトライ。他、11分、17分と仲光が3トライを

上げる。

■昭和5年12月1日

西南クラブ 3 ($\frac{0-0}{3-0}$) 0 佐賀高等学校

両軍の伯仲せる戦いは、後半10分西南和田がドリブル、大きくゴールに蹴り込んでそのままゴール。貴重な3点を守りきった。西南、辛勝す。

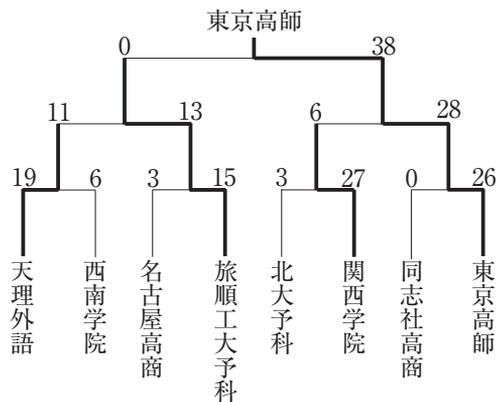
■全国高専大会

地方予選九州参加校(西南学院、大分高商、山口高商、福岡高校、長崎薬専、九医、九歯、佐高、五高、七高の10チーム参加)

西南学院 12 - 0 五高、西南学院 18 - 5 佐高で勝ち、準決勝西南 17 - 0 福高と押さえ、決勝は大分高に勝利し、次いで九州台湾代表決定戦を台北高校と争った。12月30日、ホールデン院長、バーカー先生等、学院全体の支援のもと 12 - 3 で破り西日本代表として全国大会へ出場した。

■第6回全国大会 (花園ラグビー場)

(昭和6年1月2・4・6日)



●戦績

昨年同様主催は西部ラグビー協会、主管・京大ラグビー部、後援・大阪毎日で行われ、東京高師が昨年に引続き圧倒的強味を見せて優勝した。

■第1回戦第1試合

(昭和6年1月2日・R合田 夷)

天理外語 19 $\left(\begin{matrix} 5-0 \\ 14-6 \end{matrix} \right)$ 6 西南学院

北奥松辻鍛松高玉光庄土安鳥吉	川田井井治本橋垣枝内佐藤居福	FW	筑渡小速池安船明和高内青仲吉松岡松	紫辺石水田部曳石田田柳光留岡部尾
		HB		
		TB		
		FB		
		交代		

戦況：前半、10時30分開始。開始後西南は猛烈なドリブルで天理を圧迫し、間もなく25ヤード線内に入ったが、タイトにおいては天理は1日の長あり、よく防いで危機を脱し、西南側10ヤードのタイトから球を得て、TBパスで進み、左に抜いて先ず最初のトライを挙げ、ゴール。

後半、西南FWのドリブルは物凄く、天理側25ヤード線内で突進を重ねて死に物狂い

の突撃は遂に功を奏してトライをして逆転したが、中頃天理は平素の調子を取戻して、タイトにおいては常に優位を示して、好機会をつくり、自由なボックスの活躍と相俟って、15分過ぎから断然優勢を示し、3トライ、1ゴールを挙げて結局19-6で勝つ。

創部以来苦難の道を歩んできた西南ラグビーは、昭和6年3月に数多くの主力選手を送り出し、西南学院と健児達に多大の成功をあたえ学校当局の理解も深まりラグビー部は充実の途を歩む。

■仲光氏追悼ラグビー (春日原G)

(昭和6年3月22日・R横山)

福岡クラブ 15 $\left(\begin{matrix} 3-0 \\ 12-3 \end{matrix} \right)$ 3 西南学院

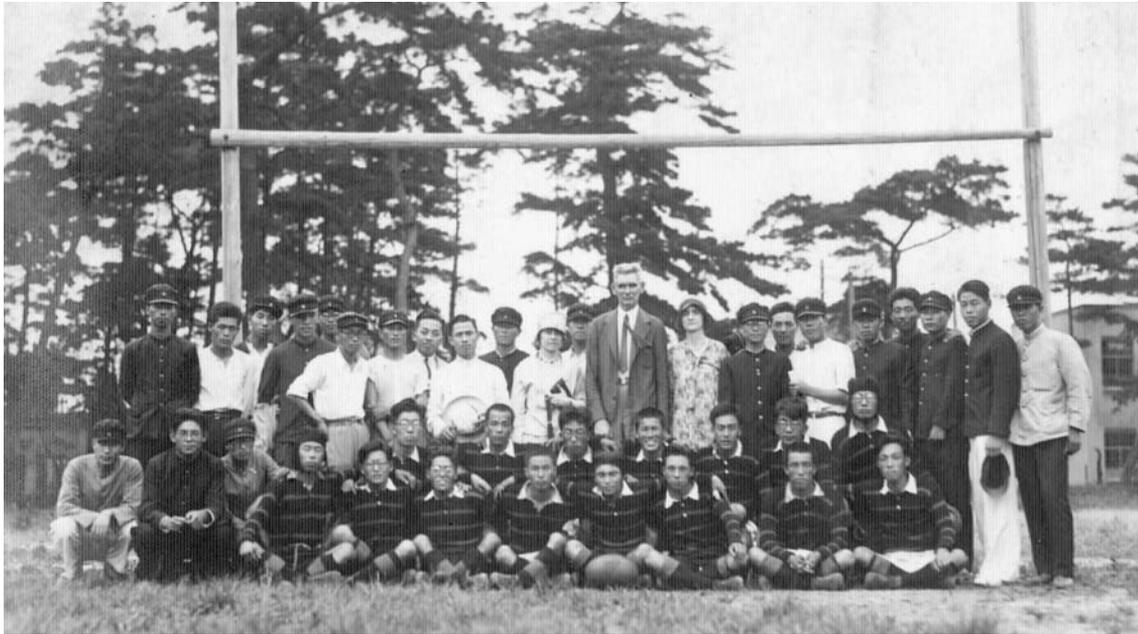
福岡クラブの外人選手の活躍で得点を重ねたが、西南、僅か1ペナルティでノートライに終る。福岡クラブ圧勝す。

■昭和6年3月

西南、佐高戦に勝つ (R葛西)

西南学院 18 $\left(\begin{matrix} 9-5 \\ 9-0 \end{matrix} \right)$ 5 佐高

強力なFWの佐高も善戦したが、昨年の覇者西南の実力発揮に殆んど佐高にチャンスなく、18-5にて西南学院が勝つ。



昭和6年大分高商を26対0で破る。ワトキンス・ベーカー（上後列中央）

32期メンバー

蒲池 貞雄・石井 透・大島 秀信
岡部 克己・宮本 周平・筑紫 隆明
堀之内藤三・大庭平八郎・小石 博喜
因 生和・中山 巖・安部 是臣
清水 幸雄・郡司 盛久・宇佐波 俊
森 茂樹・広田久次郎・内田英之助
森原 英彦・山田 博・青柳惣三郎
安広謙一郎・大里 政信・湯浅 正
鶴田 隆登・池田 達郎・南里 譲児
小塩 考雄・川辺 静雄



九州代表の制覇を獲得、全国大会初出場
速水・和田・森・内田の顔もある

■昭和6年12月14日

対西南ラグビー戦、九大勝つ。

九 大 24 $\left(\frac{10-3}{14-0}\right)$ 3 西南学院

■秋の第7回高専大会

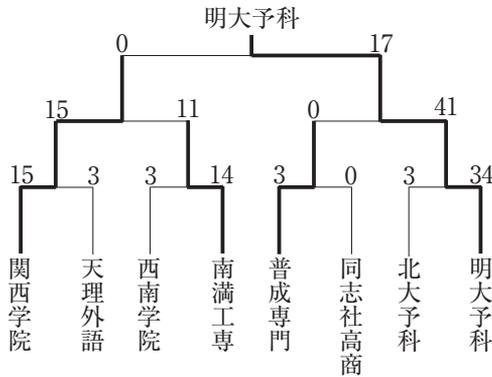
九州予選では、大分高商8 - 3 山口高商、
九医 35 - 0 九歯、福高 9 - 0 長崎薬専、
西南 18 - 5 佐高、西南 12 - 0 五高、佐高

24 - 3 七高、大分高商 40 - 0 九歯、九医 13
- 0 山口高商、五高 22 - 0 長崎薬専、福高
2 - 0 七高、準決勝では西南 17 - 0 福高、
九医 0 - 9 大分高商、決勝は大分高商を相手
に 26 - 0 で西南優勝。創部3年にして九州
代表全国大会に出場した。

●戦績

■第7回大会（花園ラグビー場）

（昭和7年1月2・4・6日）



この大会は、明大予科が圧倒的な強味を發揮して優勝した。

○第3試合 昭和7年1月2日

南満工専 14 (6-3) 3 西南学院

横宮松小伊松古山松西兒藤加村	田崎本熊東尾野本木山島毛納里	FW	郡森小因蒲池外安清湯小池青中森	郡司石因池次部水浅塩田柳山原
		HB		
		TB		
		FB		

戦況：前半午後1時40分西南のキックオフで開始。西南よく攻め敵陣に何度も好機を作ったが、満州よく防ぎ、12分満州兒島の長駆に逆襲、接戦を続けたが、13分西南敵陣左に攻め混戦のなかから安部が球を得てトライ。先ず3点を得、その後西南タイトにルーズによく球を出し敵陣に迫ったが、満州よく防いで容易に得点を許さず、25分満州中央付近で得た球を藤島、西山とパスして右隅に

トライし同点となる。之に力を得た満州は更に好調になり29分藤島中央ルーズで得た球をハイパントし、西南FBのミスに乗じて左隅にトライし3点を加う。

後半満州なおも圧迫し、5分敵陣25ヤード中央から球を得て、TB藤島カットして左中間にトライ。8分満州キックで敵陣左隅に攻入ったが返され、12分西南陣中央右から再び球を得て西山スワープと強引を併用してポスト直下にトライ、ゴール。20分西南は満州陣25ヤード中央に球を得てCTBドロップゴールを狙ったが惜しくも外れる。なお西南圧迫してよく球を得て右に左にTBパスによって迫ったが、満州古野インターセプトして独走80ヤードトライかと思えたが及ばず、その後西南挽回に努めたが及ばず、南満工専14-3で勝つ。

西南が全国大会出場。南満工専に3-14で敗北した。この試合が卒業後の速水選手を「西南の伝ちゃん」として西南不滅の指導者に変化させたという新聞記事がある。

次のような新聞記事もある。古きよき時代である。

昭和7年1月10日、大松氏送別ラグビー試合。福岡ラグビー界の重鎮として知られている山一證券博多支店次長大松勝明氏は、今回大阪支店に転勤。春日原運動場に於いて送別試合を行い、一般の観覧を希望するが、同午後6時より市内大工町にて送別会を催す筈である。同氏は来る11日午後28分博多発の列車で赴任の由。

修猷ラグビーの基礎を鍛え上げた人物として知られている。同じ記事は修猷館の記録にもある。

森 茂樹 (昭和6年入学)

私は中学明善校から西南高商に入ったのですが、当時の部長は杉本先生だった。郡司、青柳等の経験者が増加し、練習も本格化し東邦電力(現九電)の河津さんの指導を受け、横山さん、河津さんから黒と黄色の慶応色のユニフォームが決定されたものです(後に白緑に変更)。

私は西南の後は兵役に7年経由(19年大尉任官)、20年5月歩兵第431連隊大隊長任官。全羅北道新村里警備の築城中の時終戦を知り、復員、山口県仙崎港に上陸しました。

一言に比していえば、ラグビーより軍隊の方が厳しかったようです。一番の思い出は、昭和9年11月17日、九医の新グラウンドで行われた対九医戦で当然勝つ自信があり、応援団結成のうえ、幟旗迄友人が掲げ、久留米篠山城下に参集してくれたが、九州代表戦で九医に負けたこと。これは今でも残念に思います。

楽しい思い出は、皆良い友達ばかり、悪僧仲間とも付き合いその家族からも感謝された。

苦しい思い出としては、早慶OBが指導してくれた練習ではきつかったことが忘れられ

ない(但し、当時の新聞記事には、小柄ながら素晴らしいフッカーの記事がある)。

* 森氏は昭和6年に英文科に入学されたが、翌年、経済学部にも再入学されたため、昭和10年卒になっている。



34期・小石 博喜

大正元年10月16日生まれ。福岡中学卒。趣味は読書、散策。兵役は色弱丙種合格で軍隊体験はなく、大戦中マライ製鉄所勤務で特別警察隊に招集され治安維持に努め、軍隊経験がないため西南ラグビーとの比較はありません。

☆ 強烈な思い出……西南中学部の海側グラウンドでスクラムを初めて組み、先輩から首筋で体を持ち上げられた時はショックでした(福中はバスケット、和田先輩に誘われrugbyへ)。

☆ 楽しい思い出……練習後の和気あいあいのムードで色々(?)教えてもらったこと。

☆ 苦しい思い出……福中時代のバスケットの猛練習のお陰で特別にありません。



皆、西南ボーイ
(右端が森 茂樹)



昭和7年11月 学生代表の覇権を獲得

33期メンバー

宮本 周平・筑紫 隆明・堀之内藤三
大庭平八郎・小石 博喜・因 生和
中山 巖・安部 是臣・清水 幸雄
郡司 盛久・宇佐波 俊・森 茂樹
広田久次郎・内田英之助・森原 英彦
山田 博・青柳惣三郎・安広謙一郎
大里 政信・湯浅 正・鶴田 隆登
池田 達郎・南里 譲児・小塩 考雄
川辺 静雄・田村 道雄・杉本 博

■昭和7年4月8日

17-11 全福岡健闘して強豪明大に迫る

我国ラグビー界の覇者明治大学と在福岡名チームの精鋭を網羅した全福岡軍との待望されたラグビー試合は7日午後3時より春日原

グラウンドに於いて開催されたが、戦前の予想を裏切り全福岡の健闘に明大を圧迫し息づまる激闘の末、惜しくも全福岡2トライの差にて敗れ17対11で明大勝つ。主審・北島。

明大 17 ($\begin{matrix} 11-6 \\ 6-5 \end{matrix}$) 11 全福岡

美濃部	FW	郡司 (西南)	
西垣			田沢
佐々竹			チャップマン
清水			吉野
山口	HB	今村	
山			広田 (西南)
林			小野寺
都志			高木
前田	TB	和田 (西南)	
丹羽			中山
松隈			山崎
鳥羽			山崎
安田	FB	柳 (西南)	
岡			青手
柴野			東松
豊原			石

*西南学院より郡司・広田・和田・青柳の参加がある。

■昭和7年9月10日 (九州日報)

○九州ラグビー・リーグ戦

西南依然強く、九医を一蹴す。シーズン劈頭の好ゲーム。

西南対九医のラグビー戦は9年10日午後4時30分から春日原球場で挙、主審、三宅、線審吉浦、大里、西南先蹴。

西南学院 21 (9-3 / 12-5) 8 九 医

郡 司	FW	橋 爪
宇佐波		酒 井
高 松		税 田
川 邊		佐 谷
因		池 田
廣 田		三 浦
安 部		柏 木 (兄)
別 次		権 藤 (弟)
清 水		柏 久
湯 浅		佐 久
小 塩	TB	秋 山
池 田		溝 口
青 柳		江 上
中 山	FB	北 島
森 原		小 城

戦評：両軍前衛の健闘は見事でシーズン^{へきとう}劈頭を飾る好ゲームであった。勝敗の分岐は両ハーフの相違と脚力の差で九医は覇者西南を向こうに回して前衛は七分の球を得て敗れて悔なきゲームをやった強力な前衛は頼もしき将来を思わせた。しかし、ハーフ、バックローの出足は度々の反側を繰り返し一層の練習を要する。西南は持前のうま味を發揮していたが、ルーズその他でイージーな前衛は覇業を目指す上に慎まねばならぬ。西南後陣の流れすぎるプレーは一考を要するもので幾多の得点を失っていた。(吉野生・九州日報)

■昭和7年9月17日 (九州日報)

○九州ラグビー・リーグ戦

前年の覇者西南、長崎高商に零敗。

長崎高商対西南学院のラグビー戦は9月17日午後3時10分から長崎医大グラウンドに於て主審吉野、線審猿渡、大黒、西南先蹴。昨年の覇者西南もFWの活躍なく大敗した。

長崎高商 22 (6-0 / 16-0) 0 西南学院

笹 尾	FW	郡 司
藤 井		宇佐波
久 保		因
中 村		川 邊
猿 渡		高 松
阿 部		廣 田
中 田		安 部
■		舟 木
小 島		清 水
田 中		湯 浅
葉 山	HB	中 山
丹		樋 口
田 中		池 田
大 神	TB	小 塩
久 徳		原 森
	FB	

■昭和7年9月23日 (九州日報)

五高西南を破る

○九州ラグビー・リーグ戦

23日午後1時30分、九医対九齒戦を皮切りに引続き3試合春日原球場で協会公式ラグビー戦が行われたが、秋晴れのグラウンドは五高・西南の一戦を期待する多数の観衆が集り、久し振りの決戦にラグビーを満喫した。

■昭和7年9月20日

西南学院対修猷館ラグビー戦は20日午後4時より春日原に於いて吉野氏主審のもとに西南の先蹴で開始され強敵西南に対し修猷最後まで健闘したが前半西南3トライ1ゴールに対し、修猷よく2ゴールを報い、31-13で西南勝つ。

●戦績

西南学院 31 $\left(\begin{smallmatrix} 17-3 \\ 14-10 \end{smallmatrix}\right)$ 13 修猷館

郡司 宇佐 因	}	FW	}	蒲平	生
				石井	山
				古賀	部
廣田 高松 森原 安部 大里	}	HB	}	安権	藤
				小吉	野
				今武	泉
清湯 別次 中山 池田 小塩	}	TB	}	今朝	石
				不坂	破
				古井	森
樋口		FB		吉田	

■昭和7年11月20日 (九州日報)

○高専ラグビー

九 医 60 $\left(\begin{smallmatrix} 19-0 \\ 41-10 \end{smallmatrix}\right)$ 10 九 齒
(R・小野寺)

明 専 17 $\left(\begin{smallmatrix} 6-3 \\ 11-0 \end{smallmatrix}\right)$ 3 山口高
(R・手束)

長崎高商 42 $\left(\begin{smallmatrix} 18-0 \\ 24-3 \end{smallmatrix}\right)$ 3 大分高商

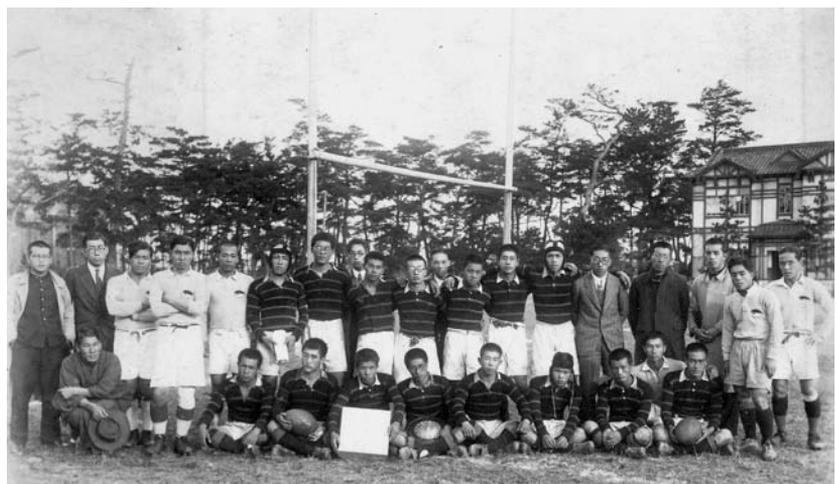
長崎薬専 11 $\left(\begin{smallmatrix} 6-10 \\ 5-0 \end{smallmatrix}\right)$ 10 西南学院

九医、明専、長崎高商、長崎薬専勝ち残る
小寒い位の好天気にも恵まれた専門学校ラグビー予選は20日午前11時半から九大工学部グラウンドで行われたが、年来の覇者西南が脆くも1回戦で新鋭長崎薬専に敗れたのは意外であった。

全国大会長崎高商出場。緒戦の関西学院戦に11-14で敗北。



昭和7年、五高戦のあと



昭和7年、福岡倶楽部との戦いのあと

第34期 (1933年度)

監督/速水 伝吉
S 8.4~9.3

34期メンバー

- 3年生 大庭平八郎・小石 博喜
因 生和・中山 巖
安部 是臣・清水 幸雄
- 2年生 郡司 盛久・宇佐波 俊
森 茂樹・広田久次郎
内田英之助・森原 英彦
山田 博・青柳惣三郎
- 1年生 安広謙一郎・大里 政信
湯浅 正・鶴田 隆登
池田 達郎・南里 譲児
小塩 孝雄・川辺 静雄

く西南バックスは縦横にグラウンドを駆け回った。西南、大勝。

西南学院 24 (14-0) 8 佐 高

河 鍋	}	FW	古 田
森 佐			松 尾
宇 波	}	FW	辻 藤
郡 司			小 林
高 松	}	FW	田 中
安 広			佐 藤
清 水	}	HB	川 口
安 磯			野 村
磯 野	}	HB	中 野
湯 浅			笹 谷
中 山	}	TB	長 川
青 柳			峰 松
池 田	}	TB	山 塚
太 田			原 田
森 原	FB	永	田

■昭和8年9月3日 (春日原G)

西南学院 38 (14-0) 10 修猷館

郡 司	}	FW	古 賀
森 松			平 山
高 鍋	}	FW	牛 島
河 波			山 本
宇 佐	}	FW	山 内
安 広			伊 勢
安 部	}	HB	郡 村
大 里			田 泉
磯 野	}	HB	今 河
湯 浅			安 内
中 山	}	TB	古 森
青 柳			酒 井
池 田	}	TB	大 石
太 田			菅 原
森 原	FB	権 藤	



佐高を撃破!

昭和初期では、対中学戦がオフィシャルゲームで実施されている。修猷元気いっばいの健闘したがHBとTBの連携が悪く西南に乗ぜられたとの記事がある。

■昭和8年11月3日 (春日原/R・吉野)

西南学院 24 (9-0) 8 長崎高商

郡 司	}	FW	岡 田
森 佐			久 保
宇 波	}	FW	岩 山
因 松			中 本
高 里	}	FW	梅 谷
大 部			福 田
安 広	}	HB	藤 井
安 磯			猿 渡
磯 野	}	HB	越 智
青 柳			森 田
中 山	}	TB	浅 尾
清 水			辻 川
池 田	}	TB	田 葉
小 塩			中山
森 原	FB	泉	

■昭和8年10月7日 (春日原/R・吉野)

対佐高ラグビーで西南学院大勝

佐高は健闘し、タイトルーズに球を得たが、ものにし得ず、特に後半はタックルが甘

●戦績

長崎高商は、本年度メンバーチェンジの影響あり、試合不馴れのためかフォワードとバックスとの連携に難あり。西南の一方的勝利となった。長商は後半僅か1トライに終わった。

■昭和8年11月9日

西南学院 40 - 0 福商

■昭和8年11月10日

(九大工学部G/R・葛西)

西南倶楽部 16 - 5 五高

■昭和8年12月3日(春日原/R・中山)

西南学院 37 (13-0 / 24-0) 0 明専

郡 司	}	FW	木村
森			自見
宇佐波			伊藤
因			松延
高南			田中正
安部			新池谷
安磯			岡本
青野			中西
中柳			河口
清山水			朴
池田	}	TB	狩野
塩田			鳥羽
小森			宮島
原	内	山	

明専の健闘が前半目立ったが、70パーセントの球をバックスに回したが、ヒールアウトが悪く、スタンドオフのボールの持ち過ぎで好機を逸し、後半西南の調子が上り、ワンサイドゲームとなった。

■昭和8年12月6日(春日原/R・川津)

西南学院 69 (26-0 / 43-5) 5 福中

郡 司	}	FW	坂井
森			北御門
宇佐波			徳永
因			馬場
高南			村田
安部			白井
安磯			内賀
青野			田中
大柳			藤西
清水田			}
池水田	森津		
小塩	梅平		
中山	FB	中園	

西南学院が終始圧倒して大勝した。

■昭和8年12月10日

(九大工学部G/R・吉野)

西南学院 27 (11-3 / 16-0) 3 九大

郡 司	}	FW	宮原
森			近藤
宇佐波			太田
因			鶴
高南			吉田
安部			竹末
安磯			山口
青野			赤野
中柳			山本
清水田			}
池水田	島田(久)		
小塩	兒玉		
森原	FB	古賀	

九大陣の西脇、森本、川関の欠場で攻防力著しくダウン。かつ、前半9分間は12名で対戦するという状況で期待された戦いは平凡な試合となった。

■昭和8年12月25日

第9回全国高専ラグビー

九州予選（九大工学部G）

○1回戦

九 医	11 - 3	福 商
西南学院	61 - 0	七 高
長崎薬専	5 - 45	長崎高商
九 齒	3 - 51	明 専
佐 高	3 - 17	大分高商

○2回戦

西南学院	6 - 0	長崎高商
鹿児島高商	5 - 45	明 専
大分高商	8 - 14	五 高

○3回戦／準決勝

西南学院	19 - 8	九 医
明 専	28 - 5	五 高

○決勝戦

西南学院	17 - 0	明 専
------	--------	-----

■昭和8年12月25日（九大工学部G）

○1回戦

西南学院	61 ($\begin{matrix} 29-0 \\ 32-0 \end{matrix} $)	0	七 高
------	--	---	-----

郡 司	}	FW	請 陽
森			八 前
宇佐波			桑 畑
因			中 村
高 松	}	HB	高 木
大 里			安 関
安 部			中 島
安 廣			安 田
磯 野	}	TB	汾 陽
青 柳			山 村
中 山			中 島
清 水			芝 野
池 田	}	FB	林 野
小 塩			香 田
森 原			佐 野

頑強な体躯の七高FWに対し、西南は殆んど球を得て、何れもTBの快走で中央辺りより長駆、独走トライを重ねて大勝した。

■昭和8年12月26日

（九大工学部G／R・葛西）

○2回戦

西南学院	6 ($\begin{matrix} 3-0 \\ 3-0 \end{matrix} $)	0	長崎高商
------	---	---	------

郡 司	}	FW	片 山
森			久 保
宇佐波			岩 本
因			中 村
高 松	}	HB	梅 谷
大 里			岡 田
安 部			藤 井
安 廣			猿 渡
磯 野	}	TB	越 智
青 柳			田 中
中 山			森 田
清 水			葉 山
池 田	}	FB	辻 川
小 塩			原 田
森 原			泉

劈頭から火の出ような接戦を展開。西南は強引な池田の突っ込みでチャンスをつかみ、遂に2トライをあげ、押し切った。長崎は強力なFWの健闘があったが、バックスが球を持ちすぎ、西南ゴール前の反則に逸機、西南の勝利を許した。

■昭和8年12月27日 準決勝

（九大工学部G／R・葛西）

西南は前日の長崎高商戦の郡司負傷欠場。九医は不戦一勝で、福高戦で余力を残し、前半は九医風上の利在り。この気力の差から前半球が手につかず、混乱を立て直し得なかった。後半に至り、風上へ変わった西南は、前半と全く見違えるばかり。FWも七分三分によく球をとり、前半低すぎた磯野のパスも正常となり、駿足のバックスを活かして3トラ

●戦績

イ、2ゴールをあげて、19対0とシャットアウト、勝利を物にした。正に練習の成果とチームワークの賜である。

西南学院 19 (0-8 / 19-0) 8 九 医

■昭和8年12月28日 優勝戦

(九大工学部G)

西南学院 17 (14-0 / 3-0) 0 明 専

郡 司	} FW	木 村
森		林
宇佐波		伊 藤
因		松 延
高 松		岡 本
大 里	} HB	新池谷
安 部		古 賀
安 広		中 西
磯 野	} TB	河 口
青 柳		狩 野
中 山	} FB	内 山
清 水		辻 淵
池 田		笹 鳥
小 塩		
森 原		朴

全国高専ラグビー九州予選の決勝戦は、降雨の中、双方泥まみれの対戦は、明専に利なく、凱歌は西南に上る。西南は来たる31日甲子園に於いて台湾代表の台北高商に相見ゆる事となった。この一戦に勝てば、花園の全国大会に出場することとなった。残念ながら

その記録がなく、この年は不出場の記録があるが、甲子園での台北高商戦に敗れたものと思われる。

■昭和9年2月19日 (春日原/R・和田)

西南学院 11-6 東邦クラブ

■昭和9年2月20日 (春日原G)

西南学院ラグビー部では、創立者たる森原氏(31期)の追悼試合を兼ね、本年度卒業選手のための送別試合を2月20日春日原にて挙行了した。

■昭和9年3月26日 (春日原)

西南俱樂部 21 (5-3 / 16-3) 6 東邦連合軍 福岡クラブ

郡 司	} FW	中 野
森		吉 田
因		佐 藤
高 松		■ ■
南 本		■ ■
溝 里	} HB	深 見
安 池		日 比
和 部		山 崎
清 田	} TB	宮 崎
太 水		中 山
池 田	} FB	■ ■
中 山		■ ■
森 原		■ ■
		久 野
		行 武

想い出の記

和田先輩に勧誘され西南ラガーへ……

昭和9年卒・小石 博喜

私は福岡中学時代は、3年生からバスケット部に所属し、厳しく鍛われましたが、西南学院入学後のバスケット部が存在せず、中学部のコーチをしていましたが、福中の先輩の和田さんにラグビー部入部を勧められた次第であります。

速水先輩とは1年間だけ練習でお会いするくらいで、また私は八幡へと転居しましたので、特別の交友もなく、ご期待に応えるような記憶もありません。

甚だ残念であります。何卒ご了承くださるようお願い申し上げます。

皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。



森 茂樹氏より提供

35 期メンバー

- 3 年生 郡司 盛久・宇佐波 俊
森 茂樹・広田久次郎
内田英之助・森原 英彦
山田 博・青柳惣三郎
- 2 年生 安広謙一郎・大里 政信
湯浅 正・鶴田 隆登
池田 達郎・南里 譲児
小塩 孝雄・川辺 静雄
- 1 年生 田村 道雄・杉本 博

■昭和 9 年 4 月 1 日(春日原 G / R・中山)

西南倶楽部 6 $\left(\begin{matrix} 3-3 \\ 3-0 \end{matrix} \right)$ 3 東邦電力
福岡支店

本 松	}	FW	}	不明
森 松				
高 松	}	HB	}	
満 因				
森 原	}	TB	}	
南 里				
安 田	}	FB	}	
和 柳				
青 塩	}			
小 池				
中 山	}			
太 田				
山 田	}			
田 田				

■昭和 9 年 5 月 6 日 (春日原 G)

西部ラグビー協会九州支部10周年記念 7人制ラグビー大会

門鉄、西南俱、福中が優勝した。

《大学高専の部》

九 大 13 $\left(\begin{matrix} 8-0 \\ 5-0 \end{matrix} \right)$ 0 福 高

○ 1 回戦

西南倶楽部 20 $\left(\begin{matrix} 10-0 \\ 10-0 \end{matrix} \right)$ 0 佐 高

九 医 11 $\left(\begin{matrix} 3-3 \\ 8-0 \end{matrix} \right)$ 3 九 大

○ 2 回戦

西南倶楽部 21 $\left(\begin{matrix} 8-0 \\ 13-0 \end{matrix} \right)$ 0 九 医

○ 決勝戦

7人制大会終了後、学生陣対 OB 部の試合
が挙行された。

OB 42 - 16 学生で OB が大勝する。

●戦績

学生軍	42-16	OB軍
郡 司 (西南)	FW	福岡クラブのと門鉄 連合軍であった。
森 (西南)		
西 井 (九医)		
北 島 (九医)		
宇佐波 (西南)		
三 浦 (九医)	HB	
徳 永 (西南)		
児 玉 (九大)		
田 丸 (九医)	TB	
青 柳 (西南)		
小 塩 (西南)		
橋 爪 (九医)	FB	
伊 藤 (九医)		
別 次 (九医)		

■昭和9年9月8日 (R・吉野)

西南学院 27 (16-5 / 11-8) 13 福 中

郡 司	FW	半 田 北御門 平 野 高 田 甫 守 中牟田 溝 原 次 賀
王 丸		
徳 永		
松 本		
高 松		
南 里	HB	藤 西
金 丸		
大 里	TB	盛 ■ 中 村 梅 津 吉 井 長 井
森 原		
宇佐波		
青 柳	FB	
池 田		
小 塩		
太 田		

■昭和9年9月11日 (R・吉野)

西南学院 43 (24-5 / 19-3) 8 福 商

ワンサイドゲームで西南学院大勝。

■昭和9年9月13日 (R・吉野)

西南学院 29 (18-0 / 11-5) 5 修猷館

■昭和9年9月22日 (春日原G)

西南学院 38 (15-0 / 23-0) 0 福岡高商

創部間もない西南が、昭和6・7・9年と全国大会3回出場は特筆されるが、福岡高商(現福岡大学)がこの年6月18日にラグビー部を創設している。以降、半世紀以上に亘る歴史を共有している。

■昭和9年11月3日 (春日原G)

西南学院 24 (12-3 / 12-5) 8 八幡製鉄

宇佐波	FW	小 島 富 永 塚 本 小 石 花 村 福 島 内 田 藤 本
森 森		
高 松		
王 丸		
合 原		
徳 郡	HB	奥 本 伊 藤 白 石 江 戸 川 上 黒 川
金 丸		
森 原	TB	藤 田
広 田		
太 柳		
池 田	FB	
小 塩		
大 里		

好調のバックス陣の青柳を頭に池田、小塩の快足陣が縦横に駆け回って会心の試合であった。

■昭和9年11月8日

(春日原G/R・園部)

西南学院 69-0 福 高 (旧制)

宇佐波	FW	蔵 園 安 武 仲 村 幸 田 田 中 橘 村 上 藤
森 森		
高 松		
王 丸		
合 原		
徳 郡	HB	高 崎 梅 田 狩 里 荒 牧 石 井 笠 間 森 木
金 丸		
大 里	TB	
池 田		
小 塩		
大 里	FB	
森 森		

ワンサイドゲームで西南が勝つ。

■昭和9年11月10日

(春日原G/R・三宅)

西南学院 22 $\left(\begin{matrix} 11-3 \\ 11-3 \end{matrix}\right)$ 6 福岡倶楽部

王丸	}	FW	中野	}
森佐			安部	
宇波			石蔵	
松本			吉野	
高松			佐藤	
南里	}	HB	日比	}
郡司			谷原	
金丸			清水	
森原	}	TB	今泉	}
広田			田間	
太田	}	FB	内平	}
池柳			安武	
青塩			柴藤	
小里			柴行	

西南は九医戦を前に見違えるばかりの闘争心を燃やし、ラグビー部創設以来負け続けの福岡倶楽部を一蹴して、輝かしい勝利を上げた。前後半、夫々1ゴール、2トライを上げ、福岡倶楽部は前後半夫々1トライを上げたにとどまった。

■昭和9年11月17日

(九医G/R・園部)

九医 16 $\left(\begin{matrix} 3-6 \\ 13-3 \end{matrix}\right)$ 9 西南学院

梅田	}	FW	宇佐	}
北島			波森	
小森			丸本	
眞鍋			松松	
池田			高里	
伊勢	}	HB	南郡	}
田中			司丸	
戸次			原田	
田村	}	TB	森広	}
酒井			太柳	
伊藤	}	FB	青池	}
溝口			柳田	
橋爪			塩里	
秋山			大	
前門			大	

この試合、西南学院は宗教学校として日曜

日の試合は禁じられており、九医は学校の性質上、実習その他授業時間が多く、日曜日以外のゲームは困難のため種々折衝を重ねたが、なかなかまとまらず、ラグビー協会に関係者協議の結果、西南学院の希望通り九医側の譲歩により、11月17日(土)、九医グラウンドに於いてこの両雄の決戦が行われることとなった。

九州日報の記事によれば、バックスの優位により、「西南に6分の強味」といわれていたが、ホームグラウンド最初の試合に張り切った九医チームがFW戦に優位をしめ、西南バックスの駿足は封ぜられ、要するに敵の注文に完全にはまった敗北であった。

結局 16 - 9 で九医に敗れて九医は福岡地区代表チームとして全国大会九州予選に出場する資格を握った。

■第10回高専大会

九州予選では九医が明専を17対6で破り、初優勝し、全国大会に出場した。全国10地区の代表校の内、同志社予科が優勝した。

出場校は、北大予科・早大専門・同志社予科・天里外語・早南高校・山口高商・九州医専・普成専門・南満工専・台北高専であった。

■昭和9年12月5日

(九大工学部G/R・川津)

西南学院 25 $\left(\begin{matrix} 8-3 \\ 17-3 \end{matrix}\right)$ 6 九大

〈西南のメンバー〉

FW / 篠崎・森・徳永・松本・高松

宇佐波・郡司・大黒

HB / 森原・広田

●戦績

TB / 太田・青柳・池田・小塩

FB / 不明

対九医戦に敗れている西南は、シーズン最初のオフィシャルゲームに全力を注いで好スタートを切った。

■昭和9年12月7日 (九大工学部G)

門鉄 73 $\left(\begin{matrix} 29-0 \\ 44-0 \end{matrix} \right)$ 0 西南学院

野川	高松
山島	森 永
間宅	徳王
三島	合郡
新長	金南
磯野	森原
家永	広田
松永	太田
池田	青柳
山本	池田
黒瀬	小塩
井野	大里

門鉄に大敗。西南にチャンス無く、門鉄縦横の快走に西南ノートライに終る。

■昭和10年1月15日

(春日原G / R・園部)

西南学院 17 $\left(\begin{matrix} 9-0 \\ 8-0 \end{matrix} \right)$ 0 天理外語

篠崎	梶谷
森 森	志村
徳永	中村
松本	花房
高丸	立勝
金郡	勝吉
大里	吉川
森原	加藤
広田	小磯
宇佐	水谷
波柳	渡辺
青柳	大塚
池田	山添
湯浅	宮崎

天理外語は新春花園の高専大会に大阪地区代表で出場したチームであり、西下して西南、九医、佐高と対戦した。西南に敗れたが、他の2校にも敗れ三戦全敗にて大阪へ帰った。全国大会出場後、直ちに九州に下り3校と対戦したが、疲労したコンディションであった。

■昭和10年3月

明大を破り全国制覇をとげた京大軍来福、九州学生軍と対戦。西南から、FW 森・郡司・高松、HB 広田、TB 池田・青柳の6名が選抜された。試合は京大22対学生選抜3の時点で、降雨激しく天候最悪となり試合中止となり、前代未聞の珍しい結果となった。

セレクションマッチの戦前評は、精鋭をすぐる。郡司は西南FWの支柱、僚友青柳と共に活躍。森は往年ほどの元気はないが、FWのフッキングに欠かせず宇佐波は強引一点張りの闘将。TBでは青柳・池田・小塩・広田の西南勢の期待と九州日報、選抜予想である。

◇セレクションマッチ紅白軍

*郡司 (西南)	}	FW	八田 (五高)
*森 (西南)			北島 (九医)
大田 (九大)			宇佐波 (西南) *
池内 (九医)			高松 (西南)
田中 (九医)			斉藤 (佐高)
戸次 (九医)			高木 (大高商)
堤 (九医)			眞鉛 (九医)
伊勢田 (九医)			広田 (西南) *
山本 (九大)			酒井 (九医)
*青柳 (西南)			内田 (九大)
*柏木 (九医)	}	TB	山口 (福高商)
山田 (佐高)			橋爪 (九医)
*池田 (西南)			小塩 (西南)
溝口 (九医)	}	FB	森 (九大)
長谷川 (五高)			

尚、対戦は、京大(22-3)学生選抜の時点で降雨激しく天候最悪のため試合中止となり、前代未聞の珍しい結果となった。

第36期 (1935年度)

監督/速水 伝吉
昭 10.4 ~ 11.3

36期メンバー

- 3年生 安広謙一郎・大里 政信
湯浅 正・鶴田 隆登
池田 達郎・南里 譲児
小塩 孝雄・川辺 静雄
- 2年生 田村 道雄・杉本 博
- 1年生 太田 隆一・広瀬 正剛
西牟田次郎・小野 良人
桜井 五郎・合原 等
杵島 敏郎・徳永 信孝
金丸 敏美・新開 誠
山口 貞景

■昭和10年9月14日

(春日原G/R・吉森)

門 鉄 109-0 西南学院

田 野	}	FW	広 瀬	瀬 田
深 川			半 田	地
雉 野			福 松	木
船 津			高 篠	松 崎
田 島			桜 井	西牟田
松 井	}	HB	合 原	丸 田
藤 津			金 太	池 田
梅 尾	}	TB	太 池	湯 浅
長 永			湯 小	塩 里
富 丹	}	FB	小 大	
末 松				
井 野				

有力選手を送り出した影響で戦力低下の西南は門鉄の強襲に押しまわれ記録的大敗を喫した。

■昭和10年9月28日

(春日原G/R・中山)

福岡高商 25 ($\frac{8-0}{17-3}$) 3 西南学院

河 野	}	FW	福 田	田 田
福 原			半 徳	永 永
高 安			松 松	崎 井
梅 谷			高 篠	大 合
宋 次			桜 井	金 丸
八 倉	}	HB	太 池	田 田
藤 掛			湯 浅	塩 里
西 井	}	TB	小 大	
末 廣				
松 井	}	FB		
山 口				
守 田				
長 倉				

創立2年目の福岡高商がワンサイドゲームの25-3で西南を破る。その後は、西南と高商のライバル意識が続き因縁試合の始まりとなった。

■昭和10年12月1日

福岡クラブ 47-0 西南クラブ

広 瀬	}	FW	瀬 田	}	不明
半 徳			永 永		
白 髪			本 水		
松 井			井 崎		
速 桜			篠 崎		
藤 森	}	HB	原 丸	}	
金 西牟田			山 田		
中 山	}	TB	塩 里	}	
小 山			口 原		
山 金					

速水さんは、福岡クラブでも大活躍。

●思い出の記

■第11回高専大会

九医が西南、佐高、明専を倒し全国大会に出場したが、早大専門に5 - 32と敗退。



巣立ち行く選手 池田辰郎君

西南ラグビー部の黄金時代を築いた時もあったが、ここ2年やや不振のコースを辿った。彼は敗戦の主将として卒業するわけであるが、主将自らTBの中心となり俊足を飛ばしてどん底にあっても自軍への叱咤激励に涙した年もある。

彼は修猷館出身で中学時代は青柳と共に黄金時代を築き西南に入っても攻撃の中心となり、池田—青柳—池田のリターンパスは全く鮮やかなものであった。

今年卒業と共に博多取引所に入社することとなった西南の池田は福岡クラブの池田として華々しい活躍を見せるであろう。

尚、青柳はすでに八幡製鉄にあり。

(昭和11年3月12日(木) 新聞記事より)



第37期 (1936年度)

監督/速水 伝吉
S 11.4 ~ 12.3

37期メンバー

- 3年生 田村 道雄・杉本 博
- 2年生 太田 隆一・広瀬 正剛
西牟田次郎・小野 良人
桜井 五郎・合原 等
杵島 敏郎・徳永 信孝
金丸 敏美・新開 誠
山口 貞景
- 1年生 鶴丸 政春・小寺 皓
緒方 礼五郎

■昭和11年4月15日

(春日原G/R・島本)

早大 60 $\left(\begin{smallmatrix} 24-0 \\ 36-0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 九州選抜軍

早大	九州選抜軍	
山地	FW	田中 (九大)
高木		広瀬 (九大)
松木		竹田 (九大)
斉藤		中村 (九大)
村山		田中 (九医)
伊沢	HB	梅谷 (福高商)
米田 (新)		金丸 (西南) *
池田 (林)	TB	伊勢田 (九医)
伊藤		吉田 (九大)
林		西 (福高商)
池田 (林)	FB	辻 (明専)
鈴木		戸次 (九医)
川越		野田 (九医)
田中		長谷川 (九大)
井川		上木 (九医)

4月鮮満で7戦全勝の早稲田大学が帰路福岡県にて全九州学生選抜軍との間に試合が行われたが、早稲田のユサブリ猛威の前に、早大 (60 - 0) 九州選抜軍と大敗した。

*西南より出場は、金丸ただ一人であった。

■昭和11年9月19日

(春日原G/R・溝口)

西南学院 15 $\left(\begin{smallmatrix} 3-13 \\ 12-0 \end{smallmatrix}\right)$ 13 福商

西南学院辛勝、福商健闘。

■昭和11年9月23日

(九大工学部G/R・高木)

西南学院 27 $\left(\begin{smallmatrix} 18-0 \\ 9-0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 九大

西南学院大勝。

■昭和11年10月24日

(春日原G/R・高木)

西南学院 16 $\left(\begin{smallmatrix} 10-3 \\ 6-11 \end{smallmatrix}\right)$ 14 佐高

双方全く伯仲、接戦になったが前半のリードを辛うじて守り、西南辛勝す。

■昭和11年11月7日

(春日原G/R・園部)

九医 43 $\left(\begin{smallmatrix} 19-0 \\ 24-5 \end{smallmatrix}\right)$ 5 西南学院

日山	FW	廣瀬
日野		酒井
村上		猿渡
土井		白髭
倉光		鶴丸
加地	HB	合原
田中		小松
田村		本井
伊勢田	TB	金丸
執行		新開
野田	FB	篠崎
戸次		太田
坂井		西牟田
上木		山口

九医FWに押される結果、西南バックスのデフェンスが自然に浅くなり、九医バック

●戦績

ス縦横の攻撃にさらされてワンサイドゲームになった。

■昭和11年12月19日

(九大工学部 G / R・高木)

九 大 43 $\left(\begin{smallmatrix} 9-3 \\ 34-3 \end{smallmatrix} \right)$ 6 西南学院

江	頭	FW	猿	渡		
広	瀬				小	寺
平	田				徳	永
戸	伏	HB	小	野		
松	本				筵	丸
朝	倉				合	原
齊	藤	TB	金	丸		
寺	岡				白	髭
齊	藤				桜	井
竹	田	FB	酒	井		
藤	森				新	飼
					太	田
森	川		山	口		
長	尾		西	牟		
石			牟	田		
竹			松	本		

前半は接線したが後半西南疲労したため、タックル甘く九大バックスの脚力以上のスコアの開きとなった。西南バックスにもっと決定的なタックルがあれば、点差はこれ程広が

らなかったらう。

一方、九大にあってはゴールキックにもっと慎重があつたら得点差はもっと大きくなつたであらう。

■昭和12年1月23日

(大谷球場 / R・森原)

八幡製鉄 36 $\left(\begin{smallmatrix} 19-5 \\ 17-0 \end{smallmatrix} \right)$ 5 西南学院

上	田	FW	猿	渡		
長	崎				小	寺
大	塚				徳	永
小	石	HB	小	野		
桜	井				鶴	丸
吉	永				篠	崎
福	島	TB	合	原		
岡	岡				金	丸
					桜	井
花	村	FB	酒	井		
仲	上				新	飼
黒	値				太	田
長	川	FB	山	口		
青	柳				西	牟
白	石				牟	田
曾			松	本		

製鉄楽勝。



第38期 (1937年度)

監督/速水 伝吉
S 12.4 ~ 13.3

38期メンバー

- 3年生 太田 隆一・広瀬 正剛
西牟田次郎・小野 良人
桜井 五郎・合原 等
杵島 敏郎・徳永 信孝
金丸 敏美・新開 誠
山口 貞景
- 2年生 鶴丸 政春・小寺 皓
緒方礼五郎
- 1年生 川瀬 泰・猿渡 幸男
肘井 康行・安西 透

■昭和12年5月2日 (春日原G)

第4回7人制ラグビー大会举行。

○第1部/大学高専

<第1回戦>

西南学院 19 $\left(\begin{smallmatrix} 8-0 \\ 11-0 \end{smallmatrix} \right)$ 0 九 歯

<優勝戦>

九 医 11 $\left(\begin{smallmatrix} 8-3 \\ 3-0 \end{smallmatrix} \right)$ 3 西南学院

*西南、学生の部に優勝ならず。

○第2部/中学

<優勝戦>

福 中 3 $\left(\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 3-0 \end{smallmatrix} \right)$ 0 明 善

○第3部/実業団

<優勝戦>

福岡クラブ 21 $\left(\begin{smallmatrix} 13-0 \\ 8-3 \end{smallmatrix} \right)$ 3 門鉄小倉

■昭和12年7月4日

全九州五高商ラグビー大会

<準決勝>

西南俱樂部 13 $\left(\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 10-3 \end{smallmatrix} \right)$ 3 福岡高商

大分高商 16 $\left(\begin{smallmatrix} 16-0 \\ 0-6 \end{smallmatrix} \right)$ 6 長崎高商

<優勝戦>

西南俱樂部 54-17 大分高商

高 崎	徳 永	廣 瀬	古 山	山 野	鶴 合	金 桜	猿 渡	太 田	篠 井	酒 崎	古 賀	山 口	(鉄)	FW	村 上	福 西	小 井	松 村	荒 卷	湯 浅	岡 山	濱 坂	半 田	諏 訪	宮 崎	湊 村	今 淵	上 李
													(次)	TB														
														FB														

試合は一方的な試合となり、久しく不振を続けていた西南も見事な更生ぶりをみせて、堂々第1回大会の覇権を獲得し、秋への期待を深くした。

●戦績

■昭和 12 年 12 月 4 日

(春日原 G / R ・ 大黒)

西南学院 20 $\left(\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 17-0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 保険局

川	瀬	}	FW	小	野
小	寺			木	村
大	藤			松	隈
井	上			津	崎
小	野			亀	岡
肘	井			池	田
古	賀			川	口
西	(七)		■	岡	
牟	田	平	谷		
高	崎	}	TB	笠	倉
合	原			西	村
猿	渡			讚	井
鶴	丸	}	FB	大	城
桜	井			大	迫
古	賀	(次)			
桜	井				

■昭和 12 年 10 月 30 日

(春日原 G / R ・ 松落)

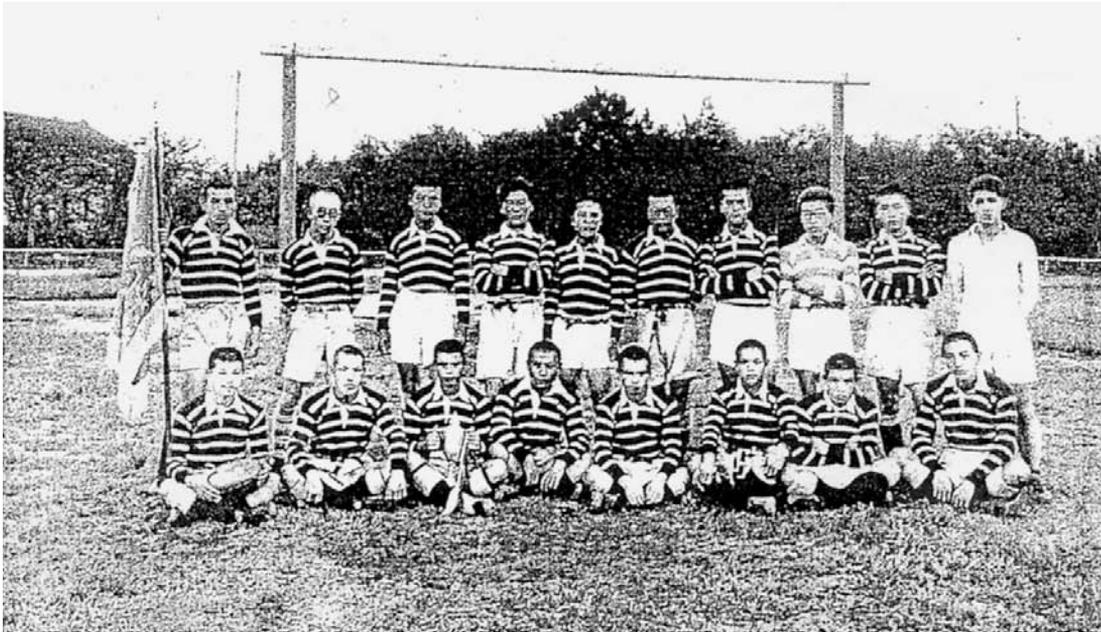
九 医 25 $\left(\begin{smallmatrix} 9-0 \\ 16-3 \end{smallmatrix}\right)$ 3 西南学院

ワンサイドゲームで九医勝つ。

タイト互角、ルーズ九医優勢、西南バックスのタックル決まらず守備陣も脆弱で九医の蹂躞にまかせる事となり、西南後半1トライのみで結局 25 - 3 でワンサイドゲームで西南敗れる。

7月第1回全九州五高商大会で優勝したが、秋の高専大会九州大会では西南 5 - 12 で福高商で敗退し、九州医専が全国大会に出場した。





昭和13年全国高専大会

旗手の39期鶴丸政春主将(福中OB)は49期鶴丸民夫(初三連覇組)の実兄。
速水監督の丸坊主も珍しく前列に「冒険だん吉」こと、闘将浦雅明・後列に疾風の青柳恭平(修猷OB)もいる。
この年は九州地区代表を失い九州医専が出場。緒戦で九州医専30対3大阪高医を一蹴。
準決勝で九州医専3対30慶応予科で敗退し早大予科が優勝した。

39期メンバー

- 3年生 鶴丸 政春・小寺 皓
緒方礼五郎
- 2年生 川瀬 泰・猿渡 幸男
肘井 康行・安西 透
- 1年生 猪野 隆平・高松 坂明
松永 泰裕・湯浅 和彦
浦 雅明・大藤 義人
平田 正人・安部 福敏
上野 健一・猿渡 清樹
青柳 恭平・吉岡 七郎
古賀 次男

■昭和13年5月2日

<7人制大会>

高専大学の部、西南学院大決勝戦で九医に敗れる。

○1回戦

西南学院 7-3 福高商
九医 14-0 九大

○2回戦

西南学院 16-0 九歯
九医 15-0 福高

○優勝戦

九医 5-3 西南学院

●戦績

■昭和 13 年 8 月 28 日

(春日原 G / R · 内田)

<九州・山口六高商大会>

○準決勝戦

西南学院 9 $\left(\begin{smallmatrix} 3-3 \\ 6-3 \end{smallmatrix} \right)$ 6 福岡高商

大	藤	}	FW	柳	原
小	寺			諸	能
猿	渡			福	島
猪	野			高	原
川	瀬			一	丸
平	田	小	宮		
古	賀	宮	藤		
浦	(鉄)	田	三		
肘	井	安	中		
高	崎	内	菊		
青	柳	中	大		
古	賀	内	島		
鶴	丸	菊	金		
猿	渡	(幸)			
大	島	FB	金		

福岡高商が優勝の筆頭候補であったが、西南が FW の威力を生かし福高商を押さえ接戦を制した。福高商もタイトの球を大半奪ったが、足場が悪くバックスを活かしきれなかった。

■昭和 13 年 8 月 29 日

○準決勝戦

西南学院 20 $\left(\begin{smallmatrix} 5-3 \\ 15-3 \end{smallmatrix} \right)$ 6 鹿児島高商

[西南学院大メンバー]

FW / 大藤・小寺・猪野・川瀬・平田
古賀 (鉄)

HB / 浦・肘井・高崎

TB / 青柳・古賀 (次)・鶴丸・大島

FB / 緒方

前半接戦であったが、後半西南が矢継ぎ早にトライを重ね 20 - 6 で準決勝を制した。バックスの優勢勝ち。

◎優勝戦

西南学院 38 $\left(\begin{smallmatrix} 14-10 \\ 24-0 \end{smallmatrix} \right)$ 10 山口高商

大	藤	}	FW	太	田
小	寺			山	崎
猿	渡			篠	川
猪	野			川	本
川	瀬			武	波
平	田	村	田		
古	賀	角	中		
浦	(鉄)	有	光		
肘	井	中	村		
高	柳	藤	解		
青	賀	大	賀		
古	丸	田	中		
鶴	島	藤	井		
大	方	有	田		
緒		宮	地		
		FB			

優勝候補の福岡高商を破り鹿児島高商の進撃を抑えた西南は、疲労のものともせず遂に決勝を制し、再制覇の偉業を成し遂げた。

特に、後半奮起した西南 FW はタイト・ルーズに大半の球を支配し、青柳を中心とするバックスも脚力に物を言わせ、山口高商を圧した。

■昭和 13 年 9 月 10 日

(春日原 G / R · 寺岡)

西南学院 30 $\left(\begin{smallmatrix} 6-8 \\ 24-0 \end{smallmatrix} \right)$ 8 福岡中学

大健闘の福中、前半西南を 2 ペナルティーの 6 点のみに抑えリードするも、後半、体力差が出て敗れた。福中の今シーズンが楽しみな試合と言える。

■昭和 13 年 10 月 15 日

(春日原 G / R · 寺岡)

西南学院 54 $\left(\begin{smallmatrix} 30-0 \\ 24-0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 佐 高

西南、全面的に圧倒。

■昭和 13 年 12 月 18 日

(九大工学部 G / R · 藤井)

九 大 17 $\left(\begin{smallmatrix} 3-10 \\ 14-5 \end{smallmatrix}\right)$ 15 西南学院

真名子	}	FW	大 藤	}	藤
齊 藤			猿 渡		渡
松 浦			川 瀬		瀬
五十嵐			猪 野		野
林			井 上		上
宮 本	}	HB	平 田	}	寺 (鉄)
齊 藤			小 寺		賀
江 頭			古 肘		井 崎
上 野			高 青		柳
三野原			青 浦		柳
船 田	}	TB	鶴 丸	}	賀 (次)
井 上			古 猿		渡
荒 牧			猿 渡		渡
清水	}	FB	古 猿	}	渡
竹 尾			猿 渡		渡

試合開始と共に、西南は猛烈な突込みにタイトルーズとも殆んどの球を支配し、2ゴールを得たが、後半九大の猛反撃に惜しくも2点差にて惜敗す。

■昭和 13 年 12 月 18 日

(到津 G / R · 原田)

西南クラブ 20 $\left(\begin{smallmatrix} 9-0 \\ 11-0 \end{smallmatrix}\right)$ 0 日本化成

大 藤	}	FW	川 上	}	上
猿 渡 (弟)			河 原		堀
川 頼			野 中		岩
猪 野			井 上		田
井 平			小 寺		近 藤
小 寺	}	HB	岩 瀬	}	岩 瀬
古 賀 (鉄)			釜 田		釜 田
肘 井			南 伊		知 郷
高 崎			伊 知		地
青 柳			廣 近		藤
浦 賀 (次)	}	TB	廣 近	}	友 成
古 鶴			友 成		成
猿 渡 (弟)			友 成		成

■昭和 14 年 1 月 29 日

(春日原 G / R · 安部)

西南クラブ 25 $\left(\begin{smallmatrix} 14-6 \\ 11-0 \end{smallmatrix}\right)$ 6 福中クラブ

メンバー 不 明	}	FW	高 松	}	松
			大 熊		熊
			江 崎		崎
			吉 岡		岡
			杉 村		村
	}	HB	水 山	}	山
			橋 本		本
			大 田		田
			中 村		村
			石 田		田
}	TB	三 内	}	宅 田	
		須 子		子	
		須 子		子	
}	FB	須 子	}	須 子	
		須 子		子	

●戦績

■昭和 14 年 2 月 5 日

(春日原 G/R・三野原)

西南クラブ 34 (15-0 / 19-3) 3 修猷クラブ

大猿	藤	}	FW	島	田
川	渡			中	村
猪	頼			門	司
井	野	}	HB	ノ	ノ
平	上			山	内
速	田			伊	藤
古	水	}	TB	石	井
浦	賀			古	川
高	崎			山	本
青	柳	}	FB	田	村
古	賀			阿	部
鶴	丸			高	木
山	口	}	FB	溝	口
内	田			菊	地
	(英)			薄	

■昭和 14 年 3 月 27 日

九州学生選抜軍 全日本学生選抜軍

守田 (九大)	}	FW	山地 (早)
齊藤 (九大)			太田垣 (早)
荒牧 (九大)			遠藤 (明)
蒲池 (九医)	}	HB	坂下 (明)
岡部 (九医)			柴田 (京)
猪能 (高商)			北御門 (慶)
古賀鉄 (西南)	}	TB	和田 (明)
浦 (西南)			新島 (明)
古賀次 (西南)			藤 (明)
田村 (高商)	}	FB	角谷 (早)
中村 (高商)			吉原 (慶)
青柳 (西南)			吉邊 (慶)
三野原 (九大)	}	FB	砂田 (同)
内田 (高商)			高橋 (明)
金光 (高商)			井川 (■)

全日本学生選抜軍を迎撃する九州学生選抜軍の選抜試合が春日原で行われ、メンバーは次の通りとなった。3月27日より春日原にて合宿に入った。西南チームより、古賀(鉄)、浦、青柳、古賀(次)の4名が、一方、全日本学生には、北御門、新島、藤の福中OBが選ばれている。





後列左より、浦 (戦死)、安部、松永、湯浅、手島部長、松下、青柳、猿渡、森山、吉岡 (戦死)、上野、平田 (戦死)
前列左より、中村、古賀、高松、大藤 (戦死)、猪野、持丸、太田 (戦死)、宿久、金山

40期メンバー

- 3年生 川瀬 泰・猿渡 幸男
肘井 康行・安西 透
- 2年生 猪野 隆平・高松 坂明
松永 泰裕・湯浅 和彦
浦 雅明・大藤 義人
平田 正人・安部 福敏
上野 健一・青柳 恭平
吉岡 七郎・古賀 次男
猿渡 清樹
- 1年生 松下栄三郎・金山 正春
中村 哲夫・森山 繁
谷知 宏一

■昭和14年4月8日

☆全日本学生選抜軍来る (小倉G)

早明慶京の一流選手をもって編成した全日本学生選抜軍は全九州学生を76-0と撃破。

4月10日全九州OBに56-6と圧勝。観衆はそのファインプレーとレベルの高さに驚嘆するばかりであった。

■昭和14年5月7日 (春日原G)

7人制ラグビー大会が行われ、三部門次の通り優勝。

○高専の部

西南クラブ 6 ($\begin{matrix} 0-5 \\ 6-0 \end{matrix}$) 5 九大

○中学の部

福商 11 ($\begin{matrix} 5-0 \\ 6-5 \end{matrix}$) 5 修猷館

●戦績

○実業団

八幡製鉄 27 $\left(\begin{matrix} 6-0 \\ 21-0 \end{matrix} \right)$ 0 福岡クラブ

■昭和 14 年 9 月 3 日 (春日原 G)

【第 3 回西日本高商ラグビー大会】

○優勝戦

福岡高商 9 $\left(\begin{matrix} 3-3 \\ 6-5 \end{matrix} \right)$ 8 西南学院

辛	川	}	FW	大	藤	
諸	熊			猿	渡	(弟)
福	島			湯	浅	
榊	原			吉	岡	
田	中			高	松	
石	橋	川	瀬			
宮	地	猪	野			
光	井	古	賀	(鉄)		
田	村	肘	井			
中	村	平	田			
金	光	}	TB	猿	渡	(兄)
三	宅			古	賀	(次)
内	田	浦				
水	口	}	FB	松	永	
中	島			青	柳	

前半同点で後半に入り接戦が続いたが、福岡高商、22分、28分にバックスの好走により2トライを上げた。西南も良く健闘しタイムアップ直前に1ゴールを上げたが1点差に敗れた。

■昭和 14 年 9 月 3 日

西南クラブ 29 $\left(\begin{matrix} 11-18 \\ 18-9 \end{matrix} \right)$ 27 門 鉄

前半、門鉄のリードを覆して久しぶりに快勝。

■昭和 14 年 10 月 28 日 (春日原 G)

福岡高商 9 $\left(\begin{matrix} 6-6 \\ 3-0 \end{matrix} \right)$ 6 西南学院

今年度の西南学院は7人制大会で九大を6

-5で破り、久々の優勝を飾った。9月の第3回西日本高商大会は決勝戦で福岡高商が二連覇の西南を9-8で破り、全国大会は西南を9-6で破って福岡高商が出場した。

■昭和 14 年 12 月 2 日

不思議な試合中止。

西南学院対福岡商業のラグビー試合は春日原グラウンドで行われる予定で、全国ラグビー大会に出場予定の福商軍が高専チームの西南にどこまで肉薄するか? 興味ある試合であったが、当日観衆もかなり多く、主審の溝口氏も待機し開戦を待ったが、両軍選手は遂に姿をみせず理由不明の下に中止となり、観衆は落胆して引き上げた。絶対にあり得ないケースも80年の歴史の中にあったという事になる。

■昭和 14 年 12 月 23 日 (R・郡)

西南クラブ 14 $\left(\begin{matrix} 6-0 \\ 8-0 \end{matrix} \right)$ 0 福岡商業

*前回流れた再試合と思われる

甲子園出場を前に、張り切る福商は西南相手に接戦を展開した。

■昭和 14 年 12 月 24 日

(春日原 G / R・中村)

西南クラブ 31 $\left(\begin{matrix} 6-6 \\ 25-5 \end{matrix} \right)$ 11 修猷クラブ

■昭和 14 年 11 月 23、25、26 日

全国高専大会九州予選大会が行われ、福岡高商が優勝。

■ 昭和 15 年 1 月

全国大会に福岡高商が出場。
大連高商を 20 - 5 で下し、浪速高商を 6 - 3 で連破したが、決勝戦で慶応予科に 0 - 19 で敗れた。

■ 我国の歴史上最悪の時期に突入

昭和 15 年 1 月護国神社地鎮祭・紀元 2600 年奉祝大会、箱崎町が福岡市に編入、支那事変拡大。同年 9 月日独伊三国同盟締結、翌年 12 月太平洋戦争突入と、我国最悪の時代に突入した。

思い出の記

昭和13～16年・猿渡 清樹

中学では柔道、西南進学後、兄幸男 (TB) と共にラグビー部に入る。素人だったのでスクラムの練習は死ぬ思いだった。肩の皮膚は破れ毎日入浴に苦労した。

繰り上げ卒業と同時に久留米 51 部隊山砲に入隊。昭和 17 年 3 月ビルマに上陸転戦を重ね終戦前はビルマと印度国境で (歴史に残る激戦地) 福岡高商 OB 中村孝君と信じられない奇遇。青春一時の思い出!

まさか生死を分けたビルマ戦線で会おうとは。ラグビー仲間。胸迫る思いは今も忘れることが出来ない。この戦争中は山砲の砲身 130kg を肩に担いで搬送し、奇蹟的に復員出来たのもスクラムのお陰

と思った。この中村君とは、その後福岡県チームとして共に国体に出場優勝。その後、三井染料が全国制覇を果たした。

《強烈な思い出》

昭和 16 年全国高専大会 (三重高農に惜敗) とビルマラモウ激戦敗退の苦渋。

《楽しい思い出》

三井染料・全国制覇と国体優勝 (昭和 36 年三井東圧科学入社の高谷裕二氏のお話で) 先輩は率先してラグビーを楽しまれていましたが、試合中タックルしたショックで金歯がなくなった。試合中断全員で金歯を探した所、ご本人の鼻孔の中から出て来て大爆笑でした。現在はバラの栽培に夢中ですね。



8年ぶりに全国高専大会の出場権を握る

後列左から、太田（戦死）、青柳、吉岡（戦死）、金山、松下、松永、猿渡、中村、古賀、湯浅
前列左から、猪野、平田（戦死）、浦（戦死）、大藤（戦死）、高松、森山

41期メンバー

- 3年生 猪野 隆平・高松 坂明
松永 泰裕・湯浅 和彦
浦 雅明・大藤 義人
平田 正人・安部 福敏
上野 健一・青柳 恭平
吉岡 七郎・古賀 次男
猿渡 清樹
- 2年生 松下栄三郎・金山 正春
中村 哲夫・森山 繁
谷知 宏一
- 1年生 加勢田太郎・大長 孝徳
豊田 好美・小山 元治
松村 義人・守次金右衛門
八木 隆輔・吉田 薫
太田 賢三・石田 耕治
鎌田 博行・丸林 勘一
今林獅子狼

■昭和 15年 5月 5日

【第7回7人制大会】(春日原G)

☆高専の部、西南優勝す。

〈準決勝〉

西南学院 19 $\left(\begin{array}{l} 10-3 \\ 9-8 \end{array} \right)$ 11 九 齒

福高商 12 $\left(\begin{array}{l} 6-0 \\ 6-8 \end{array} \right)$ 8 九 医

〈決勝戦〉

西南学院 16 $\left(\begin{array}{l} 3-0 \\ 13-0 \end{array} \right)$ 0 福岡高商

■昭和 15年 9月 1日

【第4回西日本高商ラグビー大会】

戦時色を反映して「開会式に先立って皇軍将士の英霊に対し黙祷……」との記事がある
(この黙祷した各校の選手がやがて学徒出陣にあたり、欣然として出撃。昭和19、20年4月頃戦死されたのである)。

〈第1回戦〉(R・阿部)

西南学院 76 (41-0 / 35-3) 3 鹿児島高商

猿吉	渡岡	FW	山岩	下吉	
高猪	松野		時辻	任本	
金持	山下		北	池田	田條
松森	山田				
平中	村	HB	中	倉角	
浦	永柳		豊徳	今井	
松青	田久	TB	柳	田井	
太宿	浅				山桜
湯		FB			

*一方的な試合となって西南記録的大勝。
西南のセブンFWが鹿児島を圧倒。鹿児島の攻撃力不足の上、タックルが甘かったため。

〈第2回戦〉

西南学院 17 (11-9 / 6-5) 14 福岡高商

猿吉	渡岡	FW	久辛	保川
高猪	松野		福松	島岡
持松	丸下		斉藤	藤田
松平	村		島松	永井
中	田	HB	光木	村
浦	村		中	村
松青	永柳	TB	金天	光本
太山	山		西水	岡口
湯	浅	FB	田中	

危惧された西南の浦も、第1回戦で顔面に負傷した青柳も、負傷を物ともせず出場し全軍意気高まり戦前の不安を一掃し勝利を得た。福岡高商も後半29分1ゴールを得て西南に迫ったが時既に遅く敗退した。

両軍とも、ここ一戦という気分支配さ

れ、張り切りすぎて、むしろ全力を発揮し得なかった憾みが残るゲームであった。

■昭和15年9月2日

〈優勝戦〉

西南学院 70 (38-0 / 32-0) 0 長崎高商

猿吉	渡岡	FW	清松	水尾
高猪	松野		小彦	山田
金松	山下		越山	智波
松平	村		古清	賀水
中	田	HB	成駒	水尾
浦	村		柴香	山戸
松青	永柳	TB	副	月島
太古	田		福	間
湯	浅	FB	富	田

西南のセブンFWが健闘、バックローの出足も良く長崎を完封。脚力に勝るTB陣が長崎高商を縦横に撃破、全くワンサイドゲームとなって優勝を飾った。

両軍スピードの差とバックローの出足の差が試合を決定づけた。

■昭和15年10月26日 (R・溝口)

福岡高商 12 (0-6 / 12-0) 6 西南学院

辛島	川田	FW	大吉	藤岡
福島	岡		高猪	松野
松太	田		持森	丸山
坂田	井		松平	山下
中	村	HB	中	村
光木	村		浦	村
中野	田	TB	松青	永柳
重天	光本		太古	田賀
水口	島	FB	重	山

●戦績

試合は前半西南に元気なく苦戦したが、20分、福岡高商・木村のパスミスをつき、西南平田が取って60ヤード独走、トライ。ハーフタイム直前に、浦の独走にトライを重ねてリードしたが、福岡高商が西南の浦の突進、青柳の快足を完全にマークしてトライを重ね逆転を果たした。正に気力の凱歌といえる。

■昭和15年11月24日

《全国高専中等ラグビー大会九州予選》

○1回戦

佐高 41 (19-0 / 22-0) 0 五高

西南学院 55 (23-0 / 32-0) 0 大分高商

明専 0 (0-0 / 0-0) 0 福岡高商
*抽選勝

○準決勝

西南学院 48 (17-0 / 31-0) 0 長崎高商

明専 13 (13-0 / 0-0) 0 佐高

西南は徹頭徹尾、長崎のFWを圧倒。大半の球をバックスに送り着々と得点を重ねた。

○決勝戦 (R・内田)

西南学院 20 (17-5 / 3-0) 5 明専

大 藤	岡 松	} FW	西 志	川 田
吉 高	猪 野		志 廣	本 口
猪 猿	渡 山		江 齊	藤 宅
森 松	下 田	} HB	三 伯	谷 朴
平 中	村 浦		中 村	山 井
松 古	永 賀		多 多	良 藤
太 青	田 柳	} TB	梶 泉	(定)
金 山	山		泉 二	宮
		FB		

両軍共ダブルヘッダーのため疲労しているので凡戦となったが、西南はFWの健闘を生かしてヒールアウトの球を浦の処理が巧妙で脚力に優るバックスがトライを重ねた。

■昭和15年12月14日

「雌伏8年間の荒馬九州健児の頑張りを見せる若駒」九州代表西南学院は大分高専を55対0、長崎高商を48対0、優勝戦で昨年の覇者福岡高商を破った明専に1ゴールを許すのみという大豪振りであった。

古き歴史を持つ西南は新進の福岡高商、明専のために押さえられ雌伏を余儀なくされたが久しぶりの出場で選手が硬くならなければ西南の荒馬振りは非常に期待が持たれる。

(「大阪毎日新聞」抜粋)

■昭和15年12月15日

(鞘ヶ谷G/R・飯森)

八幡製鉄 18 (13-6 / 5-3) 9 西南学院

藤 小	田 森	} FW	吉 岡	岡 渡
工 藤	高 藤		猿 高	松 野
小 島	岸 部		猪 持	丸 藤
高 阿	小 福	} HB	大 松	下 田
福 山	原 上		平 中	村 浦
山 原	篠 原		中 浦	
山 黒	白 富	} TB	松 永	柳 永
白 富	石 本		青 太	柳 賀
		FB	速 水	

対製鉄戦惜敗。

製鉄のキックオフとともに西南は製鉄陣に

雪崩込み5分早くもトライに成功。その後再三再四敵陣を脅かしていたが、製鉄のバックスを容易に抜けず製鉄闘将篠原、小澤、阿部、原田のトライに押され後半の追撃ものにならず結局18対9で西南が惜敗した。

■昭和15年12月21日

(九大工学部G/R・酒井)

西南学院 27 (8-3 / 19-0) 3 九 大

吉釜	岡山	FW	守馬	田場
高猪	松野		轟土	轟木
持丸	藤丸		砂山	隈崎
大松	下田		柴山	本田
平中	村中	HB	清水	部部
浦	永柳		占安	江江
松青	太柳	TB	荒藤	頭牧
古湯	賀浅		藤島	荒藤
		FB	島崎	島崎

予想以上の大差で西南快勝す。全員一致となったチームワーク、緊密な連絡の下になされた団体の勝利であった。

前半は九大強力FWは9割の球を獲り完全に西南を圧倒。8対3とリードしたが、後半は練習量の差が歴然と出て西南7割の球を得て西南の誇る快足を充分に生かし九大後陣を攪乱、見事に逆転した。西南近來の快ゲーム。

■昭和15年12月15日 (R・篠原)

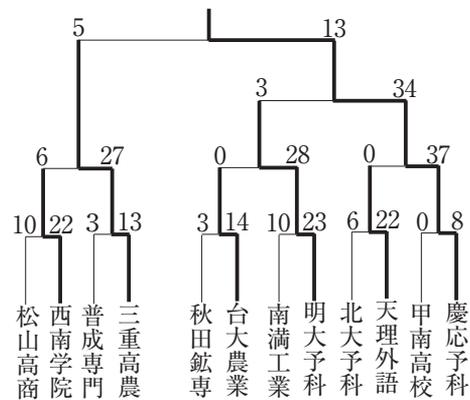
西南対九歯ラグビー戦は引き続き同4時20分より主審篠原、線審湯浅(西南)、石原(九歯)三氏審判の下に西南先蹴で開始、西南は九医に1ゴールを許したのみで50-5で大勝した。

西南学院 50 (21-0 / 29-5) 5 九 歯

大吉	藤田	FW	深小	崎西
高猪	松野		澤多	田井
持丸	丸山		森本	山田
松平	山下		村原	川尾
中	田村	HB	辰松	崎島
	浦永		宮中	井本
松青	柳田	TB	三松	
太古	賀水		黒	
速		FB		

■第16回全国高専ラグビー大会(花園G)

第16回大会では関東からは前年優勝チームの慶応予科と明大予科が久しぶりに出てきたが、明大予科は準決勝で慶応予科に大差で敗れ、むしろ甲南高校や決勝戦での三重高農が慶応予科と好ゲームを展開している。結局は関東の壁を破ることは出来ず慶応予科の連破を許すこととなった。



■昭和16年1月4日

★第2回戦 (R・乾)

概評：10時30分西南の先蹴で開始、松山はドリブルに勝っているが、球出し悪く球は殆どバックに渡らず、一方西南はTBの突進力に優れて10分古賀のトライ、20分にも猿

●戦績

渡のインターセプトから古賀のトライとなって好調なスタートを切る。後半10分松山の伊田のトライ、ゴール成ってから非常に元気になったが20分、23分と西南平田の再度のトライはゴール成って大勢は決した。

(岩下)

西南学院 22 (6-0) 10 松山高商

猿吉	渡岡	} FW	齐宮	内本
高猪	松野		宮渡	辺田
持大	元藤		伊土	居本
松平	下田	} HB	岡大	岡間
中浦	村		野奥	重原
松青	永柳		代川	田筋
太古	田賀	} TB	丸丸	山伯
金山	山		佐岩	本
			FB	

■昭和16年1月6日 準優勝戦(R・松下)

三重高農 27 (14-3) 6 西南学院

西清	湯原	} FW	猿吉	渡岡
田内	松野		高猪	松野
佐藤	石藤		持大	山田
近南	藤部	} HB	森平	村
浅野	野		中	浦
小沢	原		松青	永柳
市岸	風田	} TB	太古	田賀
西前	兒田		金山	山
金梅	尾本		FB	

【概評】1時30分西南の先蹴で開始。三重は西南必死の食い下がり振り切つてついに決勝へと勝ち進んだ。両軍の実力からいってまず当然の帰結であろう。三重は強力なFW

をもってよく押しまくり、そのバックの突進と相まってしきりに攻込んだため、意気で戦う西南もさすがに防御に疲れた感であった。しかし三重のスタンドオフは時にスタートなく、またハーフバックとの連結不調の場合が見受けられたので、この点はいささか不安であり、ブレスキッカーに乏しいことはかなり得点を削減されている。一方西南はタイトにおける劣勢をルーズにおいて取り戻さんとしていたが、スクラムサイドのタックルがいつも一度で決まっていなかったのは三重に思う存分の活躍を許す結果となった感がある。しかし西南のあげた2つのトライはいずれもバックの活躍によるものであり、もう少しボールの供給が潤沢であつたら面白い試合になつたろうと惜しまれる。

優勝は慶応予科の連覇となった。

尚、この年の中等学校大会では後の西南学院43期加瀬田太郎主将率いる福中は第1試合で石本善信昏倒して西宮回生病院で死亡、雨中の決勝戦に喪章を付けて激闘したが台北一中に0対3で長蛇を逸し後世に残る激闘でもあつた。

昭和17年度、加勢田氏の記事には、「生涯を通じて決して忘れられない痛恨の思い出」と記している。